

〔科目名〕 宗教哲学	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 教養科目
〔担当者〕 井川 昭弘 Akihiro Ikawa	〔オフィス・アワー〕 時間: 講義前後 場所: 教室、非常勤講師室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 今日、我々は「安全、安心」を保証するかのような「管理社会」に住んでいるともいえよう。しかし、そこにおいては「善く生きる」という西洋倫理学および洋の東西を問わず宗教の古典的テーマと言える問題が把握しづらくなっているように思われる。また、近年のコロナ禍を挙げてもなく、そうした「管理社会」の破綻の危機やそこにおける生のある種の息苦しさは、多くの者が感受していることであると思われる。 この講義は世界の諸宗教に哲学的反省を加えるというアプローチではなく、「善く生きる」とは何であるかという人間の素朴な実存的関心を基盤としながら、宗教と一体化した古典的な西洋倫理学の「善き生」の探求を振り返るとともに、現代の「死生学」分野における死に至るまでの「善き生」の探求をまずは学びたい。 そのうえで、現代の「管理社会」の主要な「キャラクター」(A.マッキンタイア)である「心の専門家」の「善き生」の探求を、V.E.フランクル、神谷美恵子、E.キューブラー＝ロスの三名から取り上げることで、現代の「管理社会」における「善き生」の探求の姿に触れてみたい。 最後に、古代から近世に至る古典的な西洋哲学・倫理学の背後にあるユダヤ・キリスト教について、「キリスト教哲学」の視角から旧約・新約聖書を読み解くことで、可能な限り学んでみたい。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 この科目を学ぶことの第一の意義は、現代を生きる我々の人生の目的、意味を考えることにあると思う。それを現代社会の状況や、現代の思想家の言説を踏まえて学ぶことで、万人にとっての普遍的な人生の問題を考える手がかりを提供できるように思う。 また、社会諸科学を学ぶ際に、その前提となる人間というものの理解を深めるという意義があるように思われる。それは、社会科学を捉える際の前提を反省することになるように思われるし、社会科学を学ぶ自己に反省を加えることになるように思われる。 さらに、新旧約聖書を学ぶことは、近代的な社会科学を生み出した西洋文明の根幹を学ぶことになるという意義があると思う。こうした点は、看過されがちな問題であるので、本講義の意義もあるように思われる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 中間目標:①古代～近世までの西洋倫理学の概要を理解する。 ②現代の死生学の概要を理解する。 ③神谷美恵子、V.E.フランクル、E.キューブラー＝ロスの思想の概要を理解する。 ④旧新約聖書の主なエピソードの概要を理解し、そこから宗教的メッセージを読み取る。 最終目標:「官僚制的個人主義社会」(A.マッキンタイア)とも形容される現代社会において、「善く生きる」とはどういうことか、自分なりに信念を持つ手掛かりを授業内容から見出す。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 本校での授業は今回が初回であるが、これまでの経験から言うと、スライド資料や DVD 資料を用いて要点の分かり易い授業にしたい。またマイク使用に注意して音声の聞き取りやすさにも留意したい。		
〔教科書〕 教科書は指定しないが、授業の後半部分では各自、旧約・新約の収録された「聖書」を持参すること。なお「聖書」に関しては、日本聖書協会から出版されている各サイズの(ただし新約のみは不可)「新共同訳聖書」ないし「聖書協会共同訳」がスタンダードである。		
〔指定図書〕 V.E.フランクル(山田他訳)『それでも人生にイエスという』春秋社、1993 年。 神谷美恵子『生きがいについて』みすず書房(神谷美恵子コレクション)、2004 年。 E.キューブラー＝ロス『ライフ・レッスン』角川文庫、2005 年。 共同訳聖書実行委員会『小型聖書 旧約続編つき』日本聖書協会、1988 年。		
〔参考書〕 授業時に適宜指示する。		
〔前提科目〕		

特になし。	
【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等) 期末試験で行う。スライド資料の穴埋め欄が試験範囲となる。適宜リアクションペーパーを課すことがありうる(その場合リアペの得点は最大10点程度)。なお、欠席が授業回数の3分の1を超える者には期末試験受験資格が与えられない。	
【評価の基準及びスケール】 評価 得点比率 A 80%～100% B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 50%～60%未満 F 50%未満	
【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 この授業は、教員からの問いかけと学生の皆さんからの応答から成り立っている。したがって、教員からの発問には自由に積極的に答えてもらいたいし、たとえ発言がなくても授業内容について授業後に自分なりに消化・反芻して、思考を深めてもらいたい。人間の「生きる」ことは万人にとって問題であるのだから。 また内容が多岐にわたるので、欠席すると理解が困難になると思われ、なるべく欠席しないよう要請したい。	
【実務経歴】 特になし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション、現代日本人の「無宗教」について 内 容: 全体の授業概要、成績評価方法、必要書籍などについて説明する。 多くの日本人が自らを「無宗教」と規定することの意味、「無宗教」とは何であるのか考えてみる。 教科書・指定図書: なし(配布資料を用いる、参考図書は適宜示す)
第2回	テーマ(何を学ぶか): 生きる意味と宗教 「善き生」の探求の歴史① 内 容: 人が求める生きる意味ないし目的を考察するうえで、「善き生」について探求した西洋倫理学の歴史を古代から中世まで概観する。 教科書・指定図書: なし(配布資料を用いる、参考図書は適宜示す)
第3回	テーマ(何を学ぶか): 生きる意味と宗教 「善き生」の探求の歴史② 内 容: 人が求める生きる意味ないし目的を考察するうえで、「善き生」について探求した西洋倫理学の歴史を中世から近世まで概観する。 教科書・指定図書: なし(配布資料を用いる、参考図書は適宜示す)
第4回	テーマ(何を学ぶか): 生きる意味と宗教 「死生学」の問題意識① 内 容: 死の本質論など、死生学の基本問題を学ぶことで、「善き生」についてさらに考察を深める。 教科書・指定図書: なし(配布資料を用いる、参考図書は適宜示す)
第5回	テーマ(何を学ぶか): 生きる意味と宗教 「死生学」の問題意識② 内 容: 「死者との実存共同」など、死生学の基本問題を学ぶことで、「善き生」についてさらに考察を深める。 教科書・指定図書: なし(配布資料を用いる、参考図書は適宜示す)
第6回	テーマ(何を学ぶか): E.キューブラー＝ロスについて 内 容: E.キューブラー＝ロスの晩年の著作『ライフレッスン』から「善き生」について考える。また彼女の死生学分野への貢献も学ぶ。 指定図書: E.キューブラー＝ロス『ライフレッスン』
第7回	テーマ(何を学ぶか): 神谷美恵子について 内 容: 神谷美恵子のお名作『生きがいについて』から「善き生」について考える。また彼女のハンセン病患者との関りについて学ぶ。 指定図書: 神谷美恵子『生きがいについて』

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):V.E.フランクルについて</p> <p>内 容:V.E.フランクルの『それでも人生にイエスという』から「善き生」について考える。また彼のアウシュビッツ体験について学ぶ。</p> <p>指定図書:V.E.フランクルの『それでも人生にイエスという』</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):古代ユダヤ教の世界①</p> <p>内 容:『旧約聖書』「創世記」から、人間の原初の状態と歴史的世界への移行の物語を学ぶ中で、人間と神の基本的な関係について考える。「天地創造」～「バベルの塔」まで</p> <p>教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):古代ユダヤ教の世界②</p> <p>内 容:『旧約聖書』「創世記」から、人間の原初の状態と歴史的世界への移行の物語を学ぶ中で、人間と神の基本的な関係について考える。「アブラハムの召命」～「ヨセフ物語」まで</p> <p>教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):古代ユダヤ教の世界③</p> <p>内 容:『旧約聖書』「出エジプト記」から、イスラエル民族のエジプトよりの解放とシナイ契約の物語を学ぶことで、人間の自由の意味と道徳律の関係について考える。</p> <p>教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):古代ユダヤ教の世界④</p> <p>内 容:『旧約聖書』「イザヤ書」から、「インマヌエル預言」「苦難の僕」などの個所を学ぶことで、歴史的世界における希望について考える。</p> <p>教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):キリスト教の世界①</p> <p>内 容:『新約聖書』「福音書」から、「救世主イエス・キリスト」の出自から宣教活動への流れを学ぶことで、『旧約聖書』との連続性、「救い」ということの歴史的世界における実現について考える。</p> <p>教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):キリスト教の世界②</p> <p>内 容:『新約聖書』「福音書」から、「救世主イエス・キリスト」の教えと業の物語を学ぶことで、『旧約聖書』との連続性、「救い」ということの歴史的世界における実現について考える。</p> <p>教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):キリスト教の世界③</p> <p>内 容:『新約聖書』「福音書」から、「救世主イエス・キリスト」の「死と復活」の物語を学ぶことで、人間の生命の実相について考える。</p> <p>教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』</p>
試験	<p>配布されるスライド資料の穴埋め箇所から出題されるので、資料をきちんと綴じて保管して、試験前に見直すこと。</p>